

メサイア（ヘンデル作曲）で綴るクリスマス物語

2016年12月22日 奈良基督教会

おはなし・司祭 井田 泉

パイプオルガン演奏・佐分利みどり

「メサイア」は、ジョージ・フリデリック・ヘンデルが、友人ジェネズンの提供した英語聖書の言葉に作曲したオラトリオ（聖譚曲、宗教的音楽劇）。1741年の作です。本日はメサイアの第1部「救い主到来の約束と降誕」から、聖書の言葉と重ねて六つの曲をたどっていきます。ご一緒にクリスマスの出来事に近づき、恵みと平和の世界に触れることができますように。

ここに引用する日本語聖書は教会で用いている「新共同訳」、英語聖書はヘンデルが作曲する際に用いた「欽定訳」（King James Version 1611）です。（翻訳上、両者の意味が一致しないところがあります。）

1 慰めよ、わたしの民を慰めよ

紀元前6世紀の遠い昔、悲しみと嘆きのうちにある人々に、どこからか呼びかける声が響いてきます。優しい慰め、確かな救いを語りかける声です。神の声です。その響きは次第に大きくなってきます。

「慰めよ、わたしの民を慰めよ」と、あなたたちの神は言われる。エルサレムの心に語りかけ、彼女に呼びかけよ、「苦役の時は今や満ち、彼女の咎は償とがわれた、と。……」 呼びかける声がある。「主のために、荒れ野に道を備え、わたしたちの神のために、荒れ地に広い道を通せ。」

（イザヤ書 40：1-3）

Comfort ye, comfort ye my people, saith your God.

Speak ye comfortably to Jerusalem, and cry unto her, that her warfare is accomplished, that her iniquity is pardoned: ...

The voice of him that creith in the wilderness, Prepare ye the way of the Lord, make straight in the desert a highway for our God.

2 主の栄光が現れる

闇に閉ざされている世界に神の栄光が現れ、人々を照らします。人々はそれによって希望を抱きます。

「主」は旧約聖書における神の固有名詞「ヤハウェ」を一般的な言葉に置き換えたものです。

主の栄光がこうして現れるのを、肉なる者は共に見る。主の口がそう宣言されたのである。(イザヤ書 40 : 5)

And the glory of the Lord shall be revealed, and all flesh shall see it together: for the mouth of the Lord hath spoken it.

3 ひとりのみどりご

紀元前 8 世紀の預言者イザヤの言葉です。正義と真実と愛が失われた世界に、救いをもたらす幼子の誕生が告げられます。いつ起こるかわからない将来のことなのですが、預言の言葉はすでにそれが実現したかのよう過去形で語られます。

ひとりのみどりごがわたしたちのために生まれた。ひとりの男の子がわたしたちに与えられた。権威が彼の肩にある。その名は「驚くべき指導者、力ある神、永遠の父、平和の君」と唱えられる。(イザヤ書 9 : 5)

For unto us a Child is born, unto us a Son is given: and the government

shall be upon His shoulder: and His Name shall be called Wonderful, Counsellor, The Mighty God, The Everlasting Father, The Prince of Peace.

・ここまでが預言。これから救い主の誕生の預言が実現していきます。

4 Pifa (Pastoral Symphony) 田園曲

2000 年前、羊飼いたちが羊を守るいつもと変わらないベツレヘムの夜の野原です。しかし今夜何かが起ころうとする不思議な予感がします。

5 いと高きところには栄光、神にあれ

2で預言された主の栄光が現れ、羊飼いたちを照らします。天使が救い主の誕生を知らせ、天の大軍（天使たち）の合唱が続きます。

羊飼いたちの恐れはやがて期待と喜びに変わり、この後、羊飼いたちはベツレヘムの町に救い主を探しに行き、見出します。

オルガン演奏は「天の大軍」の合唱のところでは

……その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主なるキリスト（主メシア）である。すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ」（ルカによる福音書 2：8-14）

And lo, the angel of the Lord came upon them, and the glory of the Lord shone round about them, and they were sore afraid. And the angel

said unto them, Fear not: for, behold, I bring you good tidings of great joy, which shall be to all people. For unto you is born this day in the city of David a Saviour, which is Christ the Lord. And suddenly there was with the angel a multitude of the heavenly host praising God, and saying, Glory to God in the highest, and peace on earth, good will towards men.

6 主は羊飼いとして群れを養い

イザヤの預言は、イエス・キリストにおいて実現しました。イエスは羊飼いとなってわたしたちを集め、導かれます。

イザヤ書の箇所の後、音程が4度上がって同じメロディーが奏でられます。聖書の中のイエスの招きの言葉が一部変更され（「わたし」→「主」）、「イエスへの招き」として歌われるところです。ヘンデルは、疲れたわたしたちをイエスのもとに招きます。それは彼自身がイエスのもとで憩いを得たからに違いありません。

主は羊飼いとして群れを養い、御腕をもって集め、小羊をふところに抱き、その母を導いて行かれる。（イザヤ書 40 : 11）

He shall feed his flock like a shepherd: and He shall gather the lambs with His arm, and carry them in His bosom, and ... gently lead those that are with young.

疲れた者、重荷を負う者は、誰でも主のもとに来なさい。主はあなたがたを休ませてくださるであろう。（マタイによる福音書 11 : 28）

Come unto Him, all ye that labour and are heavy laden, and He will give you rest. [me→Him, I→He]